

# 若槻禮次郎コレクション——ロンドン海軍軍縮会議——

第一次世界大戦後、世界各国は膨れ上がる軍事費対策と世界協調のため、主力艦の保有を制限するワシントン海軍軍縮会議が結ばれ、各国の建艦競争に歯止めがかけられました。

しかし、補助艦艇の制限がなかったために、改めてイギリスのロンドンにおいて英・米・日・伊・仏の五か国が参加する軍縮会議が開かれます。この会議の首席全権となったのが、<sup>わかつきれいじろう</sup>若槻禮次郎(元総理)、<sup>たからべたけし</sup>財部 彪(海軍大臣)、<sup>まつだいらつねお</sup>松平 恒雄(駐英大使)、<sup>ながいまつぞう</sup>永井松三(駐ベルギー大使)の四人でした。また、随員として禮次郎の息子の有格や海軍大佐山本五十六、海軍中佐山口多聞(松江藩士山口宗義の子)が参加しています。

禮次郎らは昭和4年(1929)11月30日、横浜から「さいべりあ丸」に乗船し、サンフランシスコに向かいます。アメリカ大陸を横断し、12月20日にニューヨークから「オリンピック号」でロンドンに向かい、イギリスには年末の27日に到着しました。

年が明け、1月21日にロンドン会議が開幕します。各国それぞれの思惑があって交渉は非常に難航し、条約締結が行われたのは3か月後の4月22日になりました。

この度の展示では、ロンドン海軍軍縮会議の際に使用した道具や撮影した写真など、若槻家旧蔵の資料を紹介します。



よるぢちやうほう  
『萬朝報』号外 (昭和4年11月30日付)

ロンドン海軍軍縮会議に向かう使節団の日本出発を知らせた号外。当時の日本国民にとって非常に関心があったのであろう。全権委員三名(若槻禮次郎、<sup>たからべたけし</sup>財部 彪、<sup>まつだいらつねお</sup>松平 恒雄 ※永井松三はロンドンで合流)の顔写真を大きく掲載し、使節団の全氏名を記す。全権委員随員には<sup>たはらかずお</sup>田原和男(禮次郎の娘婿)、海軍大佐<sup>いそろく</sup>山本五十六、海軍中佐<sup>たもん</sup>山口多聞(松江藩士山口宗義の子)、若槻有格(禮次郎の息子)の名がある。



### スーツケース

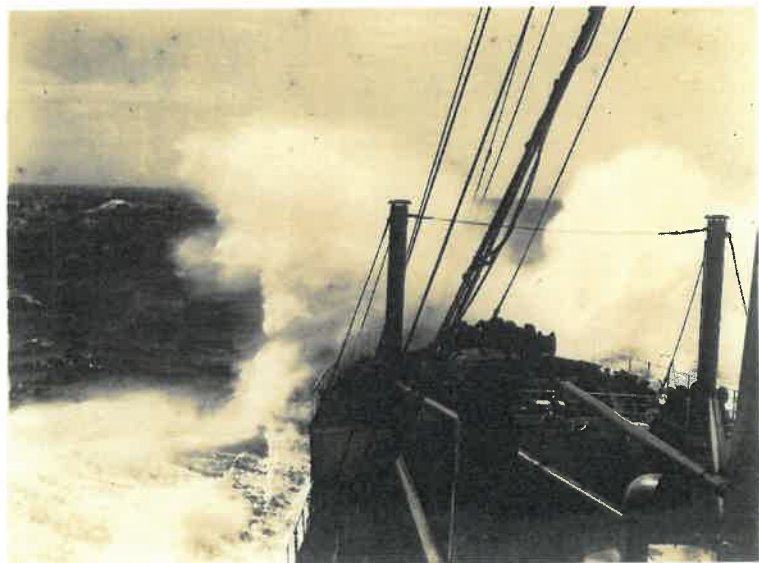
若槻禮次郎がロンドン会議に際し使用したと伝わるスーツケース。多くのシールが貼られている。ひし形の「white star line」のシールには、禮次郎の息子有格の氏名、ロンドン、乗船したオリンピック号が記されている。また、左下には禮次郎らがロンドンで宿泊した「Grosvenor House」のシールがある。



### シルクハットケース

禮次郎のイニシャル「R.W」と書かれたシルクハットを入れたケースである。上部の取っ手部分には、若槻有格の名が入ったタグが付いており、息子に荷物を管理させていたのであろう。このケースにもスーツケースと同様のシールや、往路に乗船した「さいべりあ丸」、帰路に乗船した「北野丸」と書かれたシールもある。





写真「太平洋の荒波を突き進むさいべりあ丸」



写真「デッキビリヤードに興じる使節団」

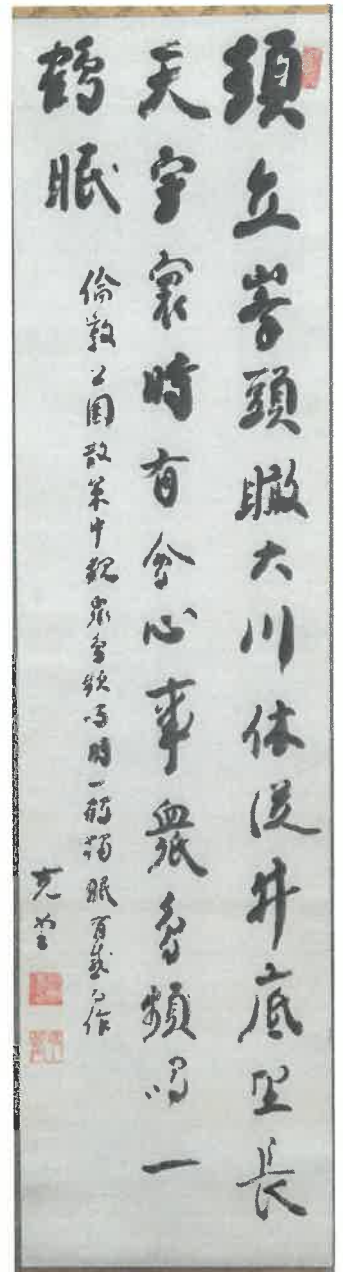
一番奥で棒を持つのが禮次郎



写真「船上の使節団」

左から、松平恒雄、やまかわただお 山川端夫、あぼきよかず 安保清種、若槻禮次郎、たからべたけし 財部彪、かばやまいすけ 財部イネ、樺山愛輔

須立峯頭瞰大川休從井底望長  
 天宇寰時有心事衆多頻鳴一  
 鶴眼 倫敦公園散策中觀衆鳥頻鳴時一鶴獨眠有感而作  
 克堂



ロンドンで詠んだ詩

ロンドン会議では、補助艦艇の保有トン数の割合を巡って日本本国とのやり取りなどで締結に時間を要した。本国からの連絡を待つ間、禮次郎はロンドンの公園を散策し、心を落ち着けていたのであろう。禮次郎は漢詩を趣味としており、そこで見た鳥を題材に詩を作った。



使節団が乗船したオリンピック号（ニューヨーク～サウサンプトン）【裏面】



若槻徳子宛岸澄子絵葉書（昭和4年12月28日付）【表面】

とくこ きしせいいち すみこ  
 禮次郎の妻徳子に宛てて松江市出身の弁護士岸清一の妻澄子が記した絵葉書である。裏面には、禮次郎ら使節団が乗船した「オリンピック号」が描かれている。前年、清一はアムステルダムオリンピックからの帰路にオリンピック号へ乗船しており、その際に手に入れたものであろう。澄子は徳子にご主人が乗っているのはこの船ですよと伝えており、若槻家と岸家の交流がうかがえる葉書である。

なお、有名なタイタニック号とオリンピック号は同型船である。